

## 「連合 2025 平和ノサップ集会」主催者代表挨拶

連合「2025 平和ノサップ集会」へ、全国各地からのご参加の皆さん、大変お疲れ様です。連合事務局長の清水です。本集会の開催にあたり、主催者を代表して挨拶を申し上げます。

最初に、本日はご多用のところ、ご来賓としてご臨席賜りました、北海道総務部北方領土対策本部長の坂本隆哉様、根室市長の石垣雅敏様、北方領土問題対策協会 理事長の山本茂樹様、北方領土返還要求運動連絡協議会 事務局長の児玉泰子様、改めて皆様に感謝を申し上げます。

また、本集会の開催にあたり、本年も外務省、内閣府北方対策本部ならびに独立行政法人北方領土問題対策協会からご後援をいただきました。誠にありがとうございます。私たち労働組合が、北方領土返還要求運動の一翼を担う立場であることをあらためて認識し、今後もさらなる運動に取り組んで参ります。

さて、私たちは、1989年、「平和、幸せ、道ひらく」をスローガンに掲げて、連合を結成いたしました。私たちが暮らし、働き、そして労働運動に取り組む上で、「平和で安心な社会」は、絶対に欠かすことができません。昔も今も、そしてこれから先も、このことは、連合が労働運動に取り組む上での大きな柱となっています。

ロシアがウクライナへの軍事侵略を開始し3年半が経過しました。戦後80年を迎える本年、いまだ世界では紛争が絶えず、罪のない市民が命を落とし、多くの人々が避難を余儀なくされています。学校や病院、公共インフラが破壊され、将来を担う子どもたちにも大きな影響を与えています。多くの市民や子どもたちの犠牲が拡大する現状に鑑みれば、改めて平和の尊さを痛感させられます。

ロシアは、日本政府がウクライナ侵略に対する制裁措置を発動したことに反発し、日本との平和条約の締結交渉を中断すると発表しました。また、北方領土問題解決のための環境づくりを目的とする「北方墓参」や「ビザなし交流」、共同経済活動に関する協議なども、一方的に中断や協定破棄を表明し、以降、再開の目途が立たないまま現在に至っています。

こうした一連の動きは、これまで日露平和条約締結に関わってきた両国関係者の努力を蔑ろにするにとどまらず、両国間の関係を1956年の日ソ共同宣言締結にもとづく国交回復以降、最悪の状況に貶めるものであると言わざるをえません。

今、改めて宣言します。平和なくして、私たちの暮らしも、労働運動もありません。

私たちが置かれている状況は非常に厳しいものですが、政府間交渉によって北方領土問題が解決され、日露両国間において真の意味での戦後を迎えるその日まで、北方四島の一括返還と日露平和条約締結に向けた取り組みを、粘り強く継続しなければなりません。その想いと決意を、本日お集まりいただいた皆様と、改めて分かち合いたいと思います。

昨日は、この平和ノサップ集會に先立ち、根室市内の3ヵ所に分かれて、「北方四島学習會」を開催し、私も参加をいたしました。

第一線の学識経験者やジャーナリスト、また先の参議院選挙にて当選された山田吉彦（やまだ・よしひこ）参議院議員を講師にお招きして、講演では、これまでの歴史や現在の国際情勢が北方領土問題に及ぼす影響などについて触れられました。

また、元島民の方からは、幼い頃に過ごしたかつての北方四島での暮らし、ふるさと、北方四島に寄せる切実な想いが語られました。

さらに、次世代を担う若者からは、日々の活動そしてそこからの気づきや学びについて発表がなされました。

皆様にとっても、北方領土問題の実相について、様々な点から学び、知る機会になったものと思います。貴重なお話をいただいた講師の皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

北方領土のうち、ここ納沙布岬から最も近い「貝殻島」までは、距離にして、わずか3.7キロです。その中間地点に日露の暫定国境線があります。まさに目と鼻の先であるにも関わらず、今は、遠い、遠い場所になってしまっています。

この納沙布岬から北方四島を眺めてみれば、その「近さ」が改めて実感できるはずです。集會の1時間前にははっきり見えていました。

しかし、元島民の方々は、ふるさとに、戻りたくても戻れない。自由に訪れることもできず、80年が経過してしまいました。元島民の方々の平均年齢はまもなく90歳となり、残された時間は決して長くはありません。

日本政府には、この現実を重く受け止め、日露関係の改善、そして、その先にある1日も早い北方領土問題の解決に向けて、粘り強い外交努力を求めたいと思います。

恒久平和実現への道は容易ではありませんが、単なる理想や夢で終わらせてはなりません。それは私たちの世代が達成しなければならない使命であり、次世代への責任でもあります。

本日お集まりの皆さんには、この北海道の根室をはじめ、沖縄、広島、長崎での連合平和4行動で、見たこと、聞いたこと、知ったことを、家庭や職場、地域に持ち帰り、ともに平和運動の輪を広げていただきたいと思います。

結びに、本集會にお集まりの皆さんと、世界の恒久平和への想いを共有し、今後の運動につなげていくことを誓いあい、主催者を代表しての挨拶といたします。ありがとうございました。

以上